

謹啓、新緑が眼に鮮やかに映え、若葉の香る季節となりました。皆様方におかれましては、益々御健勝のこと、存じます。

当福田恆存記念會は平成十四年十二月に「福田恆存生誕九十年」の記念會を現代演劇協會の協賛を得て開催致しましたが、その後、先生の没後十年を記念する行事を計画するものゝ、諸般の事情により見送らざるを得なかつた事を先づお詫び申し上げます。

しかし乍ら、当会の微志、微力に依らずとも、福田先生の業績に静かに瞠目する潮流も絶えず、このほど、先生の名作『解つてたまるか！』が五月五日より同月二十一日まで、劇団「四季」の自由劇場にて上演される運びとなりました。本公演には福田先生創設の劇団「昴」からも五名の役者が参加致します。

本作品の公演は、昭和五十三年以来ですが、初演では四百九十九回も観客が笑つたさうです。その笑ひは、笑ひの中に風刺を、風刺の中に現代人の孤独と愚昧を、一陣の風の如くに感受させるものでした。

その後、時代は変遷を辿りましたが、ヒューモアの形をとりながらも人間のあり方の核心を鋭く突いたこの作品は、現代に於いてもなほ聊かもその鋭さを減じてはゐらないものと存じます。

本作品はもともと「四季」に充て、書かれたものですが、當會と致しましては、今日、上演が稀有となつた福田作品の鑑賞の機会となればと思ひ、劇団「四季」と連名でこの案内状と、小冊子とチラシ、並びにチケットの申し込み用紙を同封させて戴いた次第です。

また、送付にあたり、何とか皆様へのサービスをと考へま

した結果、S席をお申し込みの皆様にも、公演プログラムをチケットと共にお届けすることと致しました。

このプログラムには福田恆存・浅利慶太両氏の対談「事件と作品をめぐって」が再録されてをりますが、読み応へのある対談と言へませう。また、「福田さんと芝居」と題した中村光夫氏の小文も掲載されてゐます。芝居と共に、是非ご期待戴きたいと思ひます。

末筆ながら、皆様の健やかな毎日を願ひつゝ、右御案内と共に御挨拶に代へさせて戴きます。

謹白

平成十七年春吉日

福田恆存記念會

発起人

富岡幸一郎

土井義士

金子光彦